

宗像市市営渡船 事業概要

航路の沿革

1 航路の沿革

(1) 大島～神湊～地島航路

大島から神湊に渡る海上交通の歴史は、江戸時代から明治までは櫓で漕ぎ、片道4時間を要したといわれている。明治末期になると船も大きくなり、所要次第で船支度をした。大正初期には、大島の渡海屋が事業を営み、大正11年に宮坂丸が就航して時間が短縮された。昭和5年から12年までは大島丸が魚の運搬をかねて渡海事業にあたった。公営渡船としては、昭和12年4月から第1弁天丸（15トン）が就航した。昭和27年5月から第2弁天丸、昭和33年7月から第3弁天丸、昭和43年9月から第5弁天丸、昭和56年7月には観光客増加への対応や産業振興のため、大島に初めてのフェリーおおしま（196トン）が就航し、島の物資流通や観光客に大きな変化をもたらした。昭和63年1月には高速船「しおかぜ」が就航し2隻体制となった。平成7年4月から2代目フェリーおおしま（194トン）が就航。平成21年2月から2代目高速船しおかぜ（87トン）が就航、平成29年10月に3代目フェリーおおしま（198トン）が就航している。

(2) 地島～神湊航路

地島の海上交通の歴史は、江戸後期からあり、宝永丸、宝来丸という三百石の船が、広島や大阪方面に米を運んでいたということである。昭和2年ごろ、地島丸（9トン）が地島経営として活躍していたが、赤字経営であったため、昭和38年8月1日から玄海町の経営となり、玄海丸（17トン）が就航した。昭和45年2月から第2玄海丸、昭和61年4月から第3玄海丸が就航、平成13年4月から「ニューじのしま」（55トン）が就航している。

(3) 航路再編

平成24年2月に航路再編を行い、本土側の寄港地を神湊港に集約。平成24年10月に神湊渡船ターミナルを建て替えている。これにより地島航路は航路距離が7.5キロと従来に比べ2.7キロ増加した。

平成24年2月1日 航路再編前後ダイヤ変更

	旧 (平成24年1月31日まで)	新 (平成24年2月1日から)
大島航路	3月～11月の日曜、祝日は8便/日 それ以外は7便/日 ※1月1日～3日は第1、第7便は運休	通年7便/日 ※1月1日～3日は第1、第7便は運休
地島航路	5便/日 ※1月1日は地島発10:00、16:00 神湊発11:30、17:00 1月2日～3日は第1、第6便は運休	6便/日 フェリー便(月2回) ※1月1日は地島発10:00、16:00 神湊発11:30、17:00 1月2日～3日は第1、第6便は運休

2 指定区間サービス基準

整理 番号	指定区間名		サービス基準					
	指定区 間名	二地点間	運航日程	運航時刻		各運航ごとの最低輸送能力		
				運航回数往 復/日	始発着 終発	旅客 (人)	乗用車 (台)	貨物 (m ³)
181	地島	地島漁港と 鐘崎漁港又 は神湊漁港 との間	毎日	4往復/日	07:30 以前 18:00 以降	30	—	—
			1月1日、2日、3日及び使用船舶の定期的整備・検査に要する期間はこの限りではない。					
182	福岡 大島	大島漁港又 は大島港と 神湊漁港と の間	毎日	6往復/日 内自動車航 送4以上	07:30 以前 18:00 以降	120	10	—
			1月1日、2日、3日及び使用船舶の定期的整備・検査に要する期間はこの限りではない。					

3 保有船舶と運航体制

平成 30 年 4 月 1 日現在

使用船舶	種別・船名	旅客船・ニューじのしま 平成 13 年就航	旅客船・しおかぜ 平成 21 年就航	フェリー・おおしま 平成 29 年就航
		総トン数	55 t	87 t
輸送能力	旅客 (人)	100 (最大 150)	180	245
	乗用 (台)	—	—	10
運航体制	乗組員	4 人	4 人	5 人
	勤務時間	6 : 30 ~ 18 : 50 (9 時間 30 分勤務)	6 : 30 ~ 19 : 30 (12 時間勤務)	
	職員数 (内訳)	7 人 (正職員 6・再任用職員 1)	13 人 (正職員 11・臨時職員 2)	

4 旅客運賃

別紙 1 : 旅客運賃、航路別渡船運賃改定状況表

5 利用者の推移・財政状況

別紙 2 : 渡船利用者等の推移 (決算カード)

旅客運賃

(1) 片道旅客運賃

平成 26 年 4 月 1 日適用

航 路	区 間	大 人	小 児
地島神湊航路	白浜港～神湊港	400円	200円
	泊港～神湊港	370円	190円
	白浜港～泊港	130円	70円
大島神湊航路	大島港～神湊港	560円	280円

(2) 往復旅客運賃 (旅客が大島又は地島から同一区間を往復する場合の運賃)

平成 26 年 4 月 1 日適用

航 路	区 間	大 人	小 児
地島神湊航路	白浜港から神湊港まで往復	640円	320円
	泊港から神湊港まで往復	570円	290円
	白浜港から泊港まで往復 又は泊港から白浜港まで往復	230円	120円
大島神湊航路	大島港から神湊港まで往復	980円	490円

備考 乗船券のうち復乗船券の有効期間は、発行の日から7日間とする。

- ※ 復乗船券の有効期限は、法令では2日間（運賃事務の手引：p90）
回数券の有効期限は、発売当日を含め2月間
旅客の不可抗力、船の欠航の場合に限り未使用区間に限り7日間を限度とし通用
期間を延長することができる。

航路別渡船運賃改定状況表

(1) 地島航路渡船大人運賃改定状況

改定年	白浜～鐘崎 4.8km		泊～鐘崎 2.8km		白浜～泊 2.0km	
	運賃 (円)	改定率%	運賃 (円)	改定率%	運賃 (円)	改定率%
昭和 61 年	270	—	230	—	100	—
平成 4 年	300	11.1	260	13.0	120	20.0
平成 13 年	360	20.0	320	23.1	160	33.3
	白浜～神湊 6.0km		泊～神湊 5.5km		白浜～泊 2.0km	
	運賃 (円)	改定率%	運賃 (円)	改定率%	運賃 (円)	改定率%
平成 24 年	390	8.3	360	12.5	130	△18.75
平成 26 年	400	2.6	370	2.8	130	0.0

昭和 61 年 4 月 第 3 玄海丸 就航
 平成 13 年 4 月 ニューじのしま 就航
 平成 24 年 2 月 航路再編
 平成 26 年 4 月 消費税率改定

(2) 地島航路渡船キロ当り大人運賃

改定年	白浜～鐘崎 4.8km		泊～鐘崎 2.8km		白浜～泊 2.0km	
	運賃 (円)	円/km	運賃 (円)	円/km	運賃 (円)	円/km
昭和 61 年	270	56.3	230	82.1	100	50.0
平成 4 年	300	62.5	260	92.9	120	60.0
平成 13 年	360	75.0	320	114.3	160	80.0

航路再編 改定年	白浜～神湊 6.0km		泊～神湊 5.5km		白浜～泊 2.0km	
	運賃 (円)	円/km	運賃 (円)	円/km	運賃 (円)	円/km
平成 24 年	390	65	360	65.5	130	65
平成 26 年	400	66.7	370	67.3	130	65

(3) 大島航路渡船運賃改定状況及びキロ当り運賃

改定年	大島～神湊 8.5km 大人運賃 (円)	改定率 %	円/km
昭和 56 年	300	—	35.3
平成元年	350	16.7	41.2
平成元年	360	2.9	42.4
平成 4 年	400	11.1	47.1
平成 7 年	500	25.0	58.8
平成 24 年	550	10.0	64.8
平成 26 年	560	1.8	65.9

昭和 56 年 7 月 フェリーおおしま 就航
 昭和 63 年 1 月 しおかぜ 就航
 平成 7 年 4 月 新フェリーおおしま就航
 平成 21 年 2 月 しおかぜ就航 (改定据え置き)
 平成 24 年 2 月 航路再編で改定
 平成 26 年 4 月 消費税率改正で改定